



LPガス&ガソリン小型発電機

ELSONA

取扱説明書

GD1600SR

操作手順動画



安全の為、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

はじめに


商品をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

本書では、商品の安全性に関する情報と商品の正しい取り扱い方法と簡単な点検・調整について説明してあります。

万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因となります。

安全な運転、および商品の性能を十分に発揮させる為に、商品の取り扱いを十分ご存知の方も、この商品独自の装備・取り扱いがありますので、ご使用前に必ず本書を最後までお読みください。なお、ご使用時には本書を携帯し、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

※本書では、正しい取り扱い及び点検・整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

 安全に係る注意事項を意味しています。

警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示しております。

注意

取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示しております。

要 点

正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

※仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。

※本書は大切に保管し、わからない事や不具合が生じたときにお読みください。

なお本機の転売や譲渡などをされる場合は必ず添付して下さい。

目次

安全にお使いいただくために	P1	始業点検	P15
発電機を設置する場所について	P2	・エンジンオイルの点検	P15
LP ガスについて	P3	・ガソリンの点検	P15
主要諸元	P5	・LP ガス接続ホースの点検	P16
各部の名称	P6	正しい運転操作	P17
各部の取り扱い	P7	・エンジンの始動【ガソリンの場合】	P18
・運転ランプ(緑色)	P7	・エンジンの始動【LP ガスの場合】	P20
・過負荷ランプ(赤色)	P7	・エンジンの停止【ガソリンの場合】	P22
・オイル警告ランプ(黄色)	P7	・エンジンの停止【LP ガスの場合】	P22
・チョークレバー	P8	点検・定期運転・定期交換	P23
・エコモード	P8	定期点検表	P24
・アース端子	P8	点検・調整	P25
・切替スイッチ	P9	・発電機の清掃	P25
・リセットボタン	P9	・エアフィルター清掃	P25
・ガソリタンクキャップ	P9	・エンジンオイルの交換	P26
・換気用レバー	P9	・スパークプラグの点検と清掃	P27
・LP ガスガバナ―接続口	P10	・スパークアレスターの点検と清掃	P28
・メンテナンス工具	P10	故障診断	P29
ガソリンの給油	P11	運搬	P31
LP ガスの接続	P12	保管・格納	P32
電気機器の接続	P13	配線図	P33

安全にお使いいただくために

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書とその付属書類、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。取り扱いを誤ると、物的損害や重傷、死亡に至る可能性があります。

⚠ 警告

(行為を禁止する警告文)

- ・警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- ・発電機本体や部品の改造・不適切な使用は行わないでください。
- ・排気ガスがこもる場所で使用しないでください。排気ガスによる中毒の恐れがあります。
排気ガスは一酸化炭素など有害成分を含んでいますので室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所や建物や遮へい物で風通しの悪い場所などの排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
- ・商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせたりして使用しないでください。
- ・商品の上に物を乗せて使用しないでください。
- ・火災の恐れあり、この発電機は車載用ではありません。車両に積載したまま使用しないでください。
- ・やけどの恐れあり、使用中や使用直後はマフラー部分が熱いのでマフラーやマフラー周辺のプロテクターには手足を直接触れないでください。
- ・火災の恐れあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- ・感電の恐れあり、ぬれた手で商品进行操作しないでください。
- ・感電の恐れあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- ・感電やけがの恐れあり、運転中は点検整備を行わないでください。
- ・感電やけがの恐れあり、改造や部品を取り外したまま使用しないでください。
- ・商品を他人に貸す時は、必ず取扱説明書も一緒に貸してください。
- ・排気ガス中毒や火災の恐れあり、発電機を建物や設備から 1 メートル以上離して使用してください。
- ・火災の恐れあり、燃料の給油はエンジンを停止してから行ってください。
燃料は、高い引火性と爆発性がありますので、取扱いは十分注意してください。
特に、エンジン始動前には燃料の漏れがないことを確認してください。
- ・火災の恐れあり、給油中にこぼれた燃料は布きれなどできれいに拭き取ってください。
- ・燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹼と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- ・燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
- ・本品には生命にかかわる機器や途中で電源が切れると不具合を生じる機器は接続しないでください。

△ 注意

(行為を禁止する注意文)

- ・ けがの恐れあり、傾斜させて使用しないでください。
- ・ けがの恐れあり、運転中は移動させないでください。
- ・ けがの恐れあり、商品の回転部に棒や針金を入れしないでください。
- ・ 感電の恐れあり、運転中はスパークプラグに触らないでください。
- ・ 感電の恐れあり、雨や雪の中で使用しないでください。
- ・ 感電、けがの恐れあり、子供に使用させないでください。
- ・ 感電、けがの恐れあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- ・ 火災の恐れあり、商品の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすい物（枯草わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- ・ 火災の恐れあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。
- ・ 火災の恐れあり、発電機にカバーをかける場合は、エンジン部、マフラー部が十分に冷えてから行ってください。
- ・ 火災の恐れあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- ・ 商品を自動車で運搬する場合には、倒れないようにしっかり固定してください。
- ・ 毎回使用前に行う始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- ・ 使用中に音、臭気、振動などの異常を感じたら、直ちにエンジンを停止して点検を受けてください。

発電機を設置する場所について

発電機を使用する場合、屋外の地面が水平な硬い場所でお使いください。

傾斜があると、発電機が移動する場合があります。又、地面が柔らかいと発電機が傾くことがあります。

発電機を建物およびその他設備から、1m以上離してください。

また、湿気や塵、埃の多い環境に発電機を曝さないようにしてください。

常に正しい場所に置き、正常に運転できる状態で使用してください。

LPガスについて

【LPガス】

「GD1600SR」は、LPガス（低圧：2.0～3.3kPa）を燃料とする発電機です。

- ・LPガス（低圧）とは、一般家庭で使用されるLPガスで、圧力調整器を経て供給されるLPガスです。
- ・LPガス容器から直接供給されるガスは、圧力が高いため使用できません。
- ・この発電機の燃料は、ガス種「LPガス1種1号（い号液化石油ガス）」専用です。「LPガス1種1号」以外のガス種を使用しないでください。また、この発電機は「LPガス1種1号」を、圧力調整器を経た低圧の状態での燃料とします。低圧以外の状態で使用しないでください。火災や発電機の故障の原因になります。
- ・LPガスおよびLPガス容器の取扱いに関しては、各種法律や規制があります。「高圧ガス保安法」、「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（液石法）」、「消防法」等を遵守してください。詳しくは各都道府県・消防署あるいはガス販売業者に確認してください。
- ・LPガスは引火しやすく爆発性がありますので、取扱には十分注意してください。
- ・LPガスを取扱う時やガスホースを接続・分離する時は、エンジンを停止し換気の良い場所で行ってください。
- ・LPガスを取扱う時やガスホースを接続・分離する時は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、体に帯電した静電気の除去を行ってから作業してください。
- ・エンジン始動前に、ガス漏れがない事を確認してください。
- ・LPガスが漏れている時（ガス臭いなどガス漏れを感じた時）は、直ちにエンジンを停止し、次の処置を行ってください。
 1. ガス栓を閉にする。
 2. ガスホースを発電機から取外す。
 3. LPガス事業者に連絡する。
- ・ガスホースは絶対に改造しないでください。ガス漏れや発電機を損傷する原因になります。
- ・LPガス配管との接続において、ヒューズガス栓は使用できない場合があります。

【使用中】

- ・使用中は発電機をLPガス容器から、3m以上離してください。LPガスと火気（発電機）の接続距離については地域の直轄消防署、ガス販売業者にご確認ください。
- ・使用中は発電機を建物およびその他設備から、1m以上離してください。
- ・排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や車内では絶対に使用しないでください。一酸化炭素によるガス中毒で短時間でも中毒死する恐れがあります。
- ・発電機は、換気の良い場所に設置し、エンジンの位置を考慮して、風向きや空気の流れを十分に考慮するようにしてください。

【LP ガス容器の保管】

LP ガス容器の保管について、貯蔵量 300kg 未満の場合、消防署への届出等は不要です。

なお、8kg 以上の容器は屋内に保管することはできません。

- ・ 風通しの良い場所に保管し、容器の温度が 40℃以上にならないようにしてください。
- ・ 転落、転倒等による衝撃及びバルブの損傷を防止する措置を講じ、粗暴な取扱いをしないでください。
- ・ 容器置場の周囲 2m 以内での火気の使用を禁止し、また、引火性・発火性の物を置いてはいけません。
- ・ LP ガス容器は製造後の経過年数 20 年未満のものは 5 年ごとに、製造後の経過年数が 20 年以上のものは 2 年ごとに容器再検査を実施する必要があります。
- ・ 詳しくは各都道府県・消防署あるいはガス販売業者に確認してください。

【LP ガス容器の設置】

LP ガスの設置条件は設置方法と貯蔵能力によって異なります。

下記は 50kg 容器を 2 本（貯蔵能力 100kg）設置する場合の設置基準となります。

設置の際は最寄りのガス販売業者に御相談ください。

- ・ 屋外に設置されている LP ガス容器は水平な台の上に設置し、かつ、鉄鎖やロープ等で家屋その他の構造物に固定し転倒しないようにしてください。
- ・ 火気から 2m 以上の距離をとってください。
- ・ 40℃以下の風通しの良いところに設置してください。

【LP ガス容器と圧力調整器の接続】

LP ガス容器と調整器の接続には液化石油ガス整備士による施工が必要です。

最寄りのガス販売業者に御相談、御依頼ください。

【LP ガス容器の運搬】

LP ガス容器の内容積は、8kg の容器で約 19L です。8kg を超える容器を積載する場合や、8kg の容器を 3 本以上積載する場合は、高圧ガス保安法の移動基準の適用を受けます。

車内に LP ガス容器を積んで移動する際は、ガス漏れが生じても滞留しないように窓を開けておくなど、換気措置を施すことが望まれます。

高圧ガス保安法に違反し罰則が適用された場合、交通違反などとは異なり、刑事事件として扱われます。また、両罰規定があり、違反者だけではなく法人等の代表者や個人にも刑が科されますので注意してください。

8kg を超える容器を積載する場合や、8kg の容器を 3 本以上積載する場合は、消火器・防災工具・イエローカード携行・警戒標「高圧ガス」掲示（前・後）が必要になります。詳しくは各都道府県・消防署あるいはガス販売業者に確認してください。

主要諸元 GD1600SR

名称		GD1600SR
全体諸元	使用燃料	LP ガス / レギュラーガソリン
	電圧調整方式	インバーター式
	周波数 (Hz)	50 / 60
	定格電圧 (V)	単相 AC 100
	定格出力 (kVA)	LP ガス : 1.53 / ガソリン : 1.7
	コンセント	単相 AC100V × 2
	USB 端子	2.1A × 1 1A × 1
	ガソリン容量 (L)	4.0
	LP ガス消費量 (kg/h) ^{※1}	0.46
	ガソリン消費量 (L/h) ^{※1}	0.86
	連続運転時間 (h) (50kg ガスボンベ) ^{※2}	108.6
	連続運転時間 (h) (ガソリン満タン時) ^{※2}	4.6
	操作温度 (°C)	-5~40
	最高設置場所高度 (m)	1500
	騒音レベル (dB (A)) ^{※3}	65
	全長 × 全幅 × 全高 (mm)	440 × 290 × 445
乾燥重量 (kg)	18.5	
エンジン諸元	エンジン種類	空冷 4 サイクルエンジン
	エンジン型式	148FD/S-A
	スパークプラグ	TORCH E6RTC / 互換品 NGK BPR5HS
	排気量 (cm ³)	79
	点火装置	CDI
	エンジンオイル	API 分類 SE 級以上エンジンオイル (SAE 10W-30/SAE 10W-40)
	エンジンオイル容量 (L)	0.4
	始動方式	手動リコイルスタート

※1 70%負荷時の消費量。 ※2 70%負荷時の連続運転可能時間。

※ 燃料消費量や連続運転時間は、使用条件や環境により異なる場合があります。

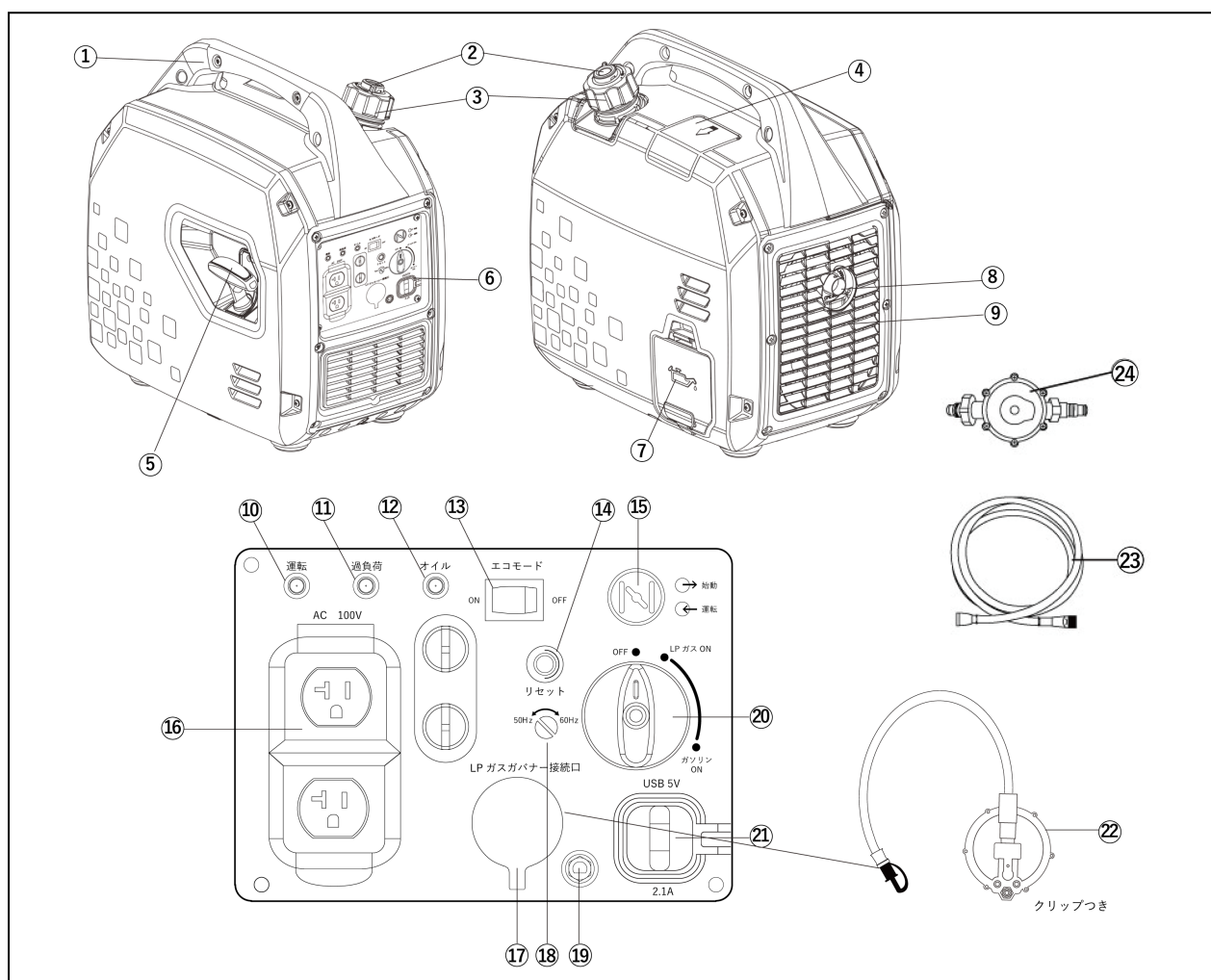
※3 騒音レベルは、平坦な場所で、距離 7m、高さ 1.5m の位置で測定した騒音レベルの数値になります。

※ LP ガス配管との接続において、ヒューズガス栓は使用できない場合があります。

※ この仕様は改良の為、予告なしに変更することがあります。

各部の名称 GD1600SR

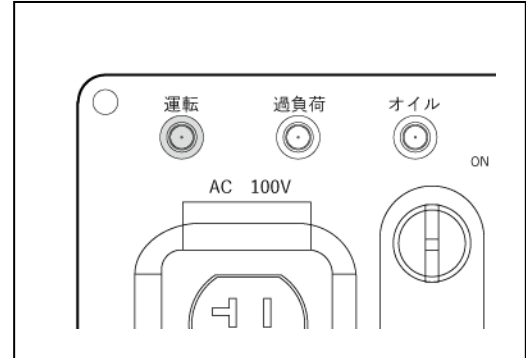
- | | |
|--------------------|--------------------|
| ① キャリーハンドル | ⑬ エコモードスイッチ |
| ② 換気用レバー | ⑭ リセットボタン |
| ③ ガソリンタンクキャップ | ⑮ チョークレバー |
| ④ スパークプラグメンテナンスカバー | ⑯ 単相 100V コンセント |
| ⑤ リコイルスターターハンドル | ⑰ LP ガスガバナー接続口 |
| ⑥ 操作パネル | ⑱ 50Hz/60Hz 切替スイッチ |
| ⑦ オイルメンテナンスカバー | ⑲ アース端子 |
| ⑧ マフラー | ⑳ 切替スイッチ |
| ⑨ マフラーカバー | ㉑ USB 端子 |
| ⑩ 運転ランプ | ㉒ LP ガスガバナー |
| ⑪ 過負荷ランプ | ㉓ LP ガス接続ホース |
| ⑫ オイル警告ランプ | ㉔ 単段式圧力調整器 |



各部の取り扱い

・ 運転ランプ (緑色)

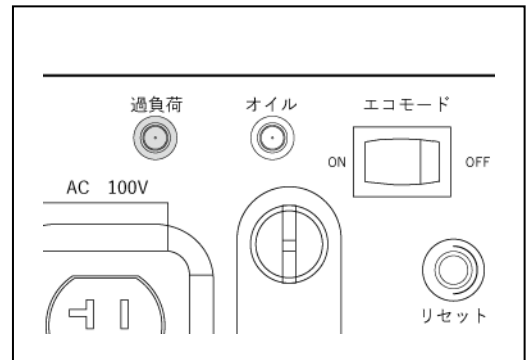
発電機が始動し、通常の出力になると、
運転ランプが点灯します。



・ 過負荷ランプ (赤色)

過負荷になるとランプが点灯し、AC プロテクターが作動し、
電気機器やシステムを保護する為、出力を停止します。

※この時、運転ランプ (消灯)・過負荷ランプ (点灯)・
エンジンは稼働状態です。

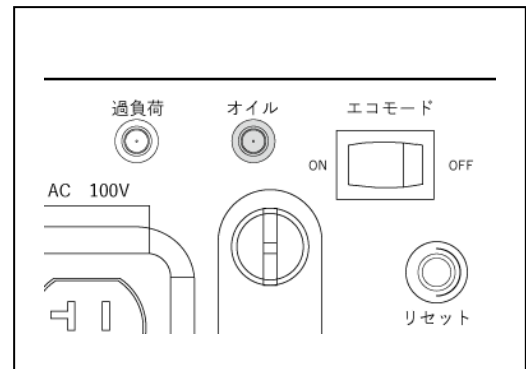


発電機を出力状態に戻すには、以下の手順を行ってください。

1. 発電機の定格出力よりも、接続している電気機器の合計消費電力が下回るようにしてください。
2. 発電機が安全な環境にあることを確認し、リセットボタンを押してください。

・ オイル警告ランプ (黄色)

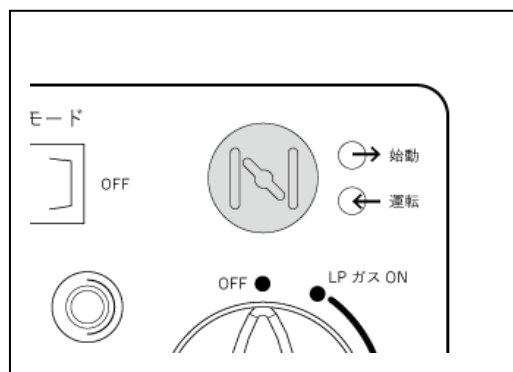
始動時にエンジンオイル量が規定以下になっていると
オイル警告ランプが点滅し、エンジンは始動しません。
また、運転中にエンジンオイル量が規定以下になると
点滅し自動的にエンジンを停止させます。



・チョークレバー

エンジンが冷えている際は、チョークレバーを始動ポジションに合わせてください。

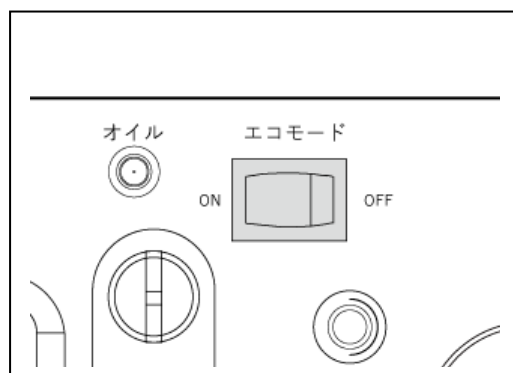
エンジンが温まっている際は、チョークレバーを運転ポジションに合わせてください



・エコモード

エコモードが ON の際は、接続されている負荷に応じてエンジンの回転数を制御し、低燃費かつ低騒音での運転に変更します。

エコモードが OFF の際は、エンジンは定格の回転速度で常時作動します。



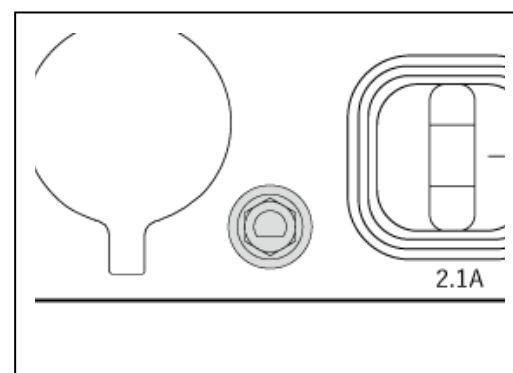
⚠ 注意

・エアコンプレッサー等の突入電力が比較的大きい製品へ接続する場合はエコモードを OFF にしてください。

・アース端子

感電防止のアース線を取り付ける端子です。
アース端子から大地にアースしてください。
使用器具をアースした時は、発電機も必ずアースしてください。

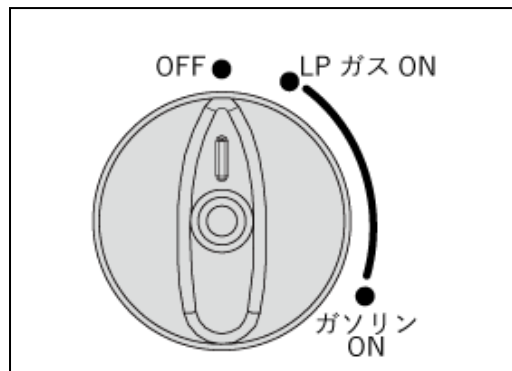
※アース工事には「電気工事士」の資格が必要です。



・切替スイッチ (OFF & LP ガス ON & ガソリン ON)

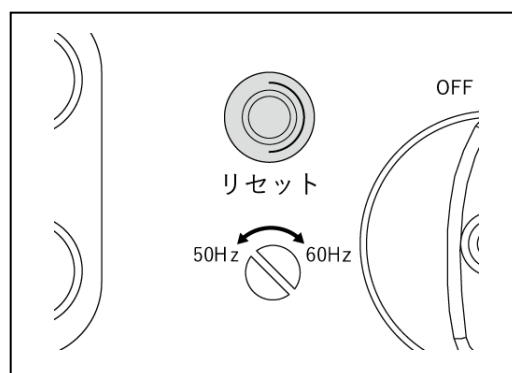
- OFF エンジンが停止します。
- LP ガス ON 発電機はLP ガスのみで作動します。
- ガソリン ON 発電機はガソリンのみで作動します。

※発電機をガソリンで作動させる際は、LP ガスガバナーを LP ガスガバナー接続口から取り外してください。



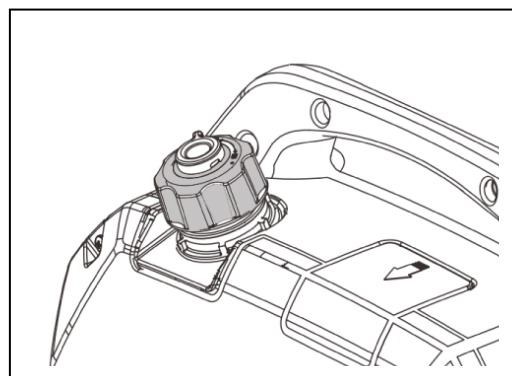
・リセットボタン

過負荷によって出力が停止した際、リセットボタンは、出力の再開に使用します。再度出力を開始する際は負荷が定格出力を下回るよう調整してから押して下さい。



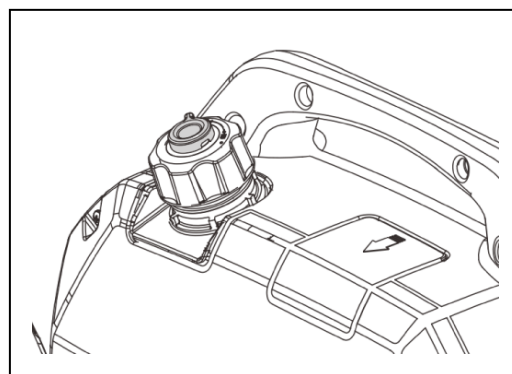
・ガソリタンクキャップ

反時計回りに回して、ガソリタンクキャップを取り外します。



・換気用レバー (ガソリン利用時のみ)

発電機が動作中は、キャブレターにガソリンを供給するために、換気用レバーを ON にします。ガソリンの漏洩防止のため、発電機を移動もしくは使用しない際は OFF にします。



注意

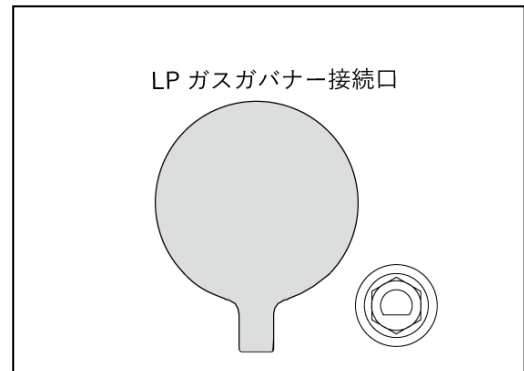
- ・LP ガスを使用する際は、ガソリンが気化しないよう、換気用レバーを OFF にします。

・LP ガスガバナー接続口

LP ガスで使用する場合にカバーを外して使用します。

LP ガスガバナーを本体のハンドルに取りつけ、LP ガスガバナーの先端のカバーを外し、操作パネルの LP ガスガバナー接続口にカチッと音がするまで押し込んで接続してください。

※LP ガスガバナー接続後、発電機はLP ガスのみで稼働します。ガソリンで作動させる場合は、LP ガスガバナーを取り外してください。



・メンテナンス工具

発電機にメンテナンス工具が同梱されています。

点検・調整の際にご使用ください。

・付属品

- | | |
|--------------------|-----|
| 1. 単段式圧力調整器 | 1 個 |
| 2. ホースエンド 15A | 1 個 |
| 3. ガス栓用プラグ | 1 個 |
| 4. LP ガス接続ホース (3m) | 1 本 |
| 5. オイル漏斗 | 1 個 |

ガソリンの給油

・ガソリンの給油

⚠ 警告

ガソリンは、高い引火性と爆発力がありますので、次の事項を必ずお守りください。

- ・給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- ・給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行ってください。
- ・燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、ただちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹼と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。
- ・ガソリタンクキャップは確実に締めてください。
- ・ガソリンの配管系統から漏洩が見られた際は、発電機を使用しないでください。
- ・配管系統での燃料漏洩がないか、定期的に点検してください。
- ・ガソリンと可燃物を近づけて保管しないでください。
- ・火災に備え、消火器を携行するようにしてください。
- ・ガソリンは自然劣化します。故障を防ぐため、30日以上しない場合は、必ず保管前に燃料抜き取りのメンテナンスを行ってください。(P32 参照)

⚠ 注意

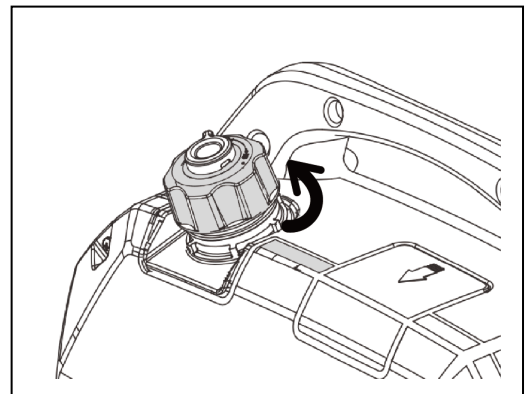
- ・燃料の給油中、燃料タンク内に水・雪・氷が入らないように注意してください。またこぼれた時は、ただちに布きれ等で完全に拭き取ってください。
- ・燃料は規定量以上給油しないでください。

燃料タンクキャップを外し、ガソリンの残量を点検します。
ガソリンの残量が少ない場合はエンジンが冷えていることを確認し、ゆっくり給油してください。

燃料タンク容量：4L

使用燃料：自動車用レギュラーガソリン

※ガソリン以外の燃料（軽油や灯油など）を使用しないでください。



LP ガスの接続

・燃料の点検

⚠ 警告

- ・燃料は引火しやすく爆発性がありますので、取扱いには十分注意を払ってください。
- ・LP ガス接続ホースの取り付け、取り外しはエンジンを停止した状態で換気の良い場所で行ってください。
- ・LP ガス容器は発電機及び火気から 2m以上離れた位置に置いてください。
- ・LP ガス容器は 40°C以下に保つようになしてください。
- ・接続の際には「ガスホースのソケット」「圧力調整器」「発電機のプラグ」にゴミ・泥・砂・水滴等の異物や傷がない事を確認し、確実に接続してください。
- ・エンジン始動前には、ガス漏れが無いことを確認してください。

⚠ 注意

- ・LP ガスおよび LP ガス容器の取扱いに関しては、各種法律や規制があります。「高圧ガス保安法」「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（液石法）」「消防法」等を遵守してください。詳しくは各都道府県・消防署あるいはガス販売業者に確認してください。
- ・LP ガス容器の接続は有資格者が行う必要があります。詳しくは最寄りのガス販売業者にご相談ください。
- ・発電機で使用する LP ガスの圧力設定は、家庭用で使用される 2.0~3.3kPa です。必ず付属の専用圧力調整器及び LP ガス接続ホースを使用してください。

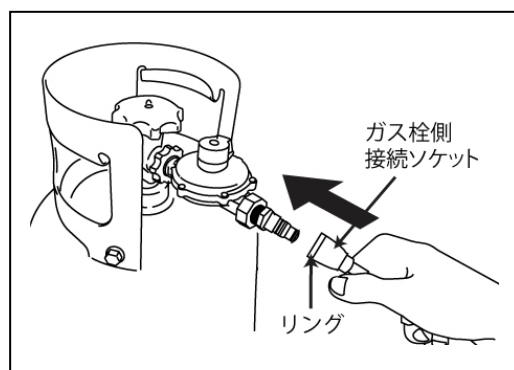
JIS K 2240 LP ガス 1 種 1 号（い号液化石油ガス）に適合した LP ガスを使用してください。

※LP ガス配管との接続において、ヒューズガス栓は使用できない場合があります。

・LP ガス接続ホースの接続

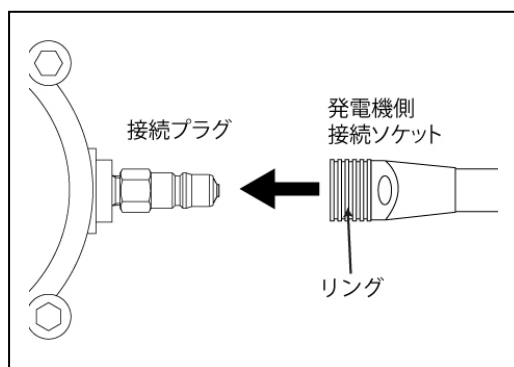
1. LP ガス接続ホースのソケットのキャップを外します。
2. LP ガス接続ホースのソケットを圧力調整器と発電機のプラグに接続します。（ガス栓側ソケットのホース接続口が回転自在に動くホースです。）

※接続不良防止の為、カチッと音がするまで差し込みます。



・LP ガス接続ホースの取り外し

1. ソケットのリングをホース側に引いて外します。
2. 取り外し後、ゴムキャップを装着します。



電気機器の接続

・電気機器の確認

1. 使用前に電源コードの損傷がないか、点検してください。
押しつぶされたり、切断や熱による損傷によって、感電の危険があります。
2. 使用器具をアースした時は、発電機も必ずアースしてください。
3. 電気機器は、発電機のエンジンが始動してから電源が OFF の状態で接続してください。
4. 使用後は全ての電気機器の電源を OFF にしてから、発電機から外してください。
5. 発電機に複数の電気機器を接続する場合は、最初に消費電力の小さいものから起動し、消費電力の最も大きいものを最後に起動してください。

警告

- ・接続した電気機器がオーバーヒートした場合、機器の電源を切り、発電機との接続を外してください。
- ・感電のリスクを減らすため、擦り切れやほつれ等、損傷のある電気コードを使用しないでください。
- ・むき出しのコードやコンセントには触れないでください。
- ・水中やはだしや濡れた手や足で、発電機や電気コードを使用しないでください。

・負荷容量

発電機が十分に電力を供給できるのか、電気機器の消費電力と起動電力の合計を基に、確認する必要があります。

1. 電気機器の合計消費電力を計算してください。
2. 電気機器を動作させるのに必要な電力の合計は、電気機器の合計消費電力になります。
3. 起動電力は、電気機器を起動する際に瞬間的に必要な電力です。

警告

- ・発電機に過負荷をかけないでください。
- ・発電機の容量を超えると、発電機や接続している電気機器が損傷するおそれがあります。

出力参照表（例）

	電気機器	消費電力 (W)	起動電力 (W)
家電	ノート PC	80	100
	省エネランプ	5~50	5~50
	電子レンジ	1000	1000
	デスクトップ PC	250	250
	扇風機	50	100
	洗濯機	250	500
	冷蔵庫	50	300
	エアコン	1600	3200
電動工具	電気ドリル	1000	1500
	インパクトレンチ	3000	6000
	水中ポンプ	2200	5000
	電気溶接機	5000	7500
	エアコンプレッサー	5000	10000

※実際にお使いになる機器により異なる場合があります。詳しくは各機器メーカーにご確認をお願いいたします。

始業点検

・エンジンオイルの点検

⚠ 注意

- ・エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。
エンジン不調になる恐れがあります。

オイルメンテナンスカバーとオイルプラグキャップを外して、エンジンオイルがオイル基準面まであるか点検します。

オイル量：約 0.4L

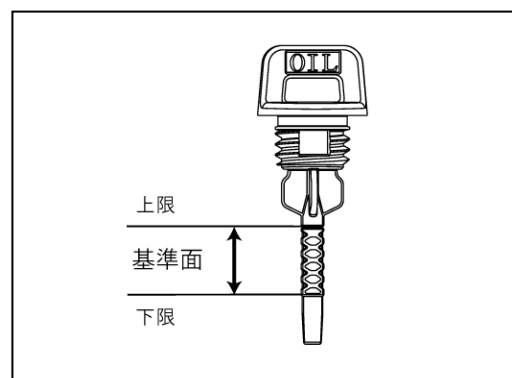
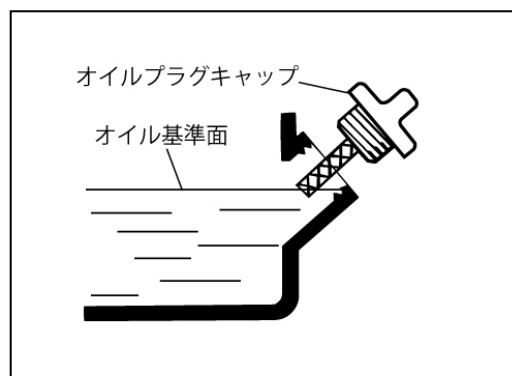
推奨オイル：API 分類 SE 級以上 SAE10W-30

または SAE 10W-40

エンジンオイルが基準面の下限より少ない場合は、オイルゲージを確認しながら上限まで給油します。(P26 参照)

要 点

- ・給油は、発電機本体を水平状態で行ってください。
- ・こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

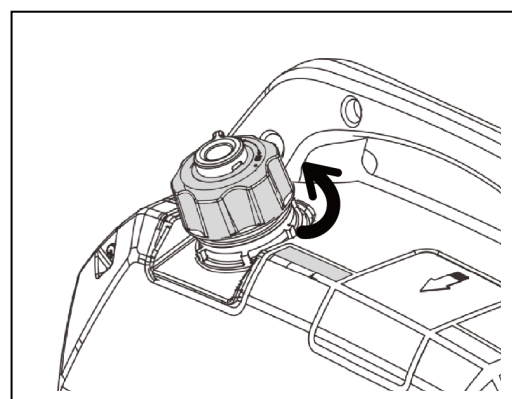


・ガソリンの点検

燃料タンクキャップを外し、ガソリンの残量を点検します。ガソリンの残量が少ない場合はエンジンが冷えていることを確認し、ゆっくり給油してください。

タンク容量：4L

使用燃料：自動車用レギュラーガソリン



⚠ 注意

- ・ガソリンタンクには、圧力がかかっています。
- ・ガソリンタンクキャップを取り外す前に、発電機を 2 分間以上冷却後、ガソリンタンクキャップをゆっくりと弛め、タンクの圧力を開放してください。
- ・燃料が膨張しあふれる恐れがある為、規定量を超えて給油しないようにしてください。

・ LP ガス接続ホースの点検

⚠ 警告

LP ガスは非常に引火しやすく、爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
点検は換気の良い場所で行い、LP ガス接続ホースに火気を近づけないでください。

損傷した LP ガス接続ホースは、ガス漏れ事故の原因となります。また、発電機を損傷する場合があります。
運転する前に点検を行ってください。

「LP ガス接続ホース本体部分」の点検

LP ガス接続ホースに亀裂・ひび割れ・切傷・摩耗等の異常がない事を確認します。

- ・ 亀裂・ひび割れ・切傷・摩耗等の異常がある場合は、使用しないでください。

「LP ガス接続ホースの迅速継手」「圧力調整器」「発電機の接続部」の点検

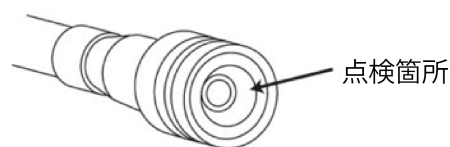
「LP ガス接続ホースの迅速継手」「圧力調整器」「発電機の接続部」にゴミ・泥・砂・水滴等の異物や傷がない事を確認します。

- ・ ゴミ・泥・砂・水滴等の異物が付着している場合は、換気の良い場所で清掃してください。
- ・ 「LP 接続ガスホースの迅速継手」に傷がある場合、新しいガスホースに交換してください。
- ・ 接続口に傷がある場合は交換が必要です。

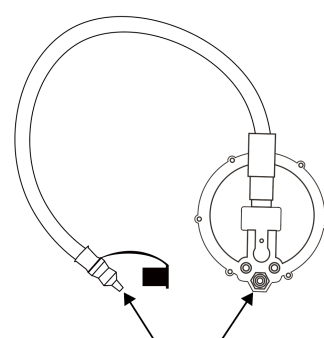
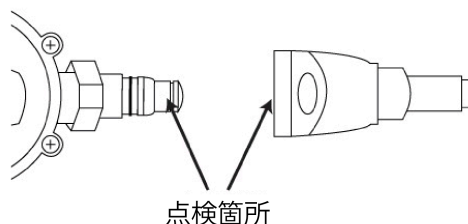
・ 発電機周辺の点検

- ・ 燃えやすいものや危険物は置かないでください。
- ・ LP ガスを使用する場合、ガス容器と発電機の間、法令上、適切な距離（2m 以上または 5m 以上）を確保する必要があります。詳しくは管轄消防署あるいはガス販売業者に確認してください。
- ・ 建物および他の設置物から 1m 以上離してください。
- ・ 風通しの良い屋外に設置してください。
- ・ 発電機を段ボール等、可燃物で囲わないでください。
- ・ 周囲に火の気がないことを確認してください。

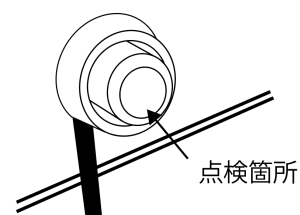
LP ガス接続ホースの迅速継手



圧力調整器との接続部



LP ガスガバナー接続口
(本体操作パネル)



正しい運転操作

- ・ 平坦な場所に設置し、発電機や LP ガス容器が傾斜することがないようにしてください。

・ エンジンの始動

警告

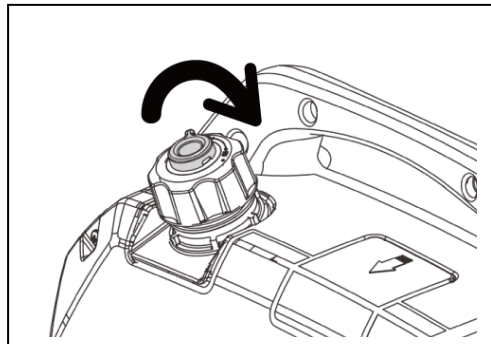
- ・ 換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所では、エンジンを始動しないでください。
- ・ エンジンを始動する前に、電気器具を接続しないでください。
- ・ エンジン始動前には、ガス漏れが無いことを確認してください。

注意

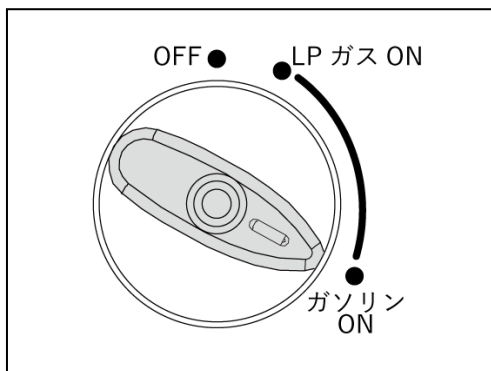
- ・ エンジンを始動させる前に、発電機からすべての電気機器の接続を外してください。
- ・ 電気機器が接続されていると、発電機の始動が難しくなるおそれがあります。
- ・ 電気機器を接続した場合の出力は、発電機の定格出力を下回るようにしてください。
- ・ 定格出力は、主要諸元表（P5）をご参照ください。
- ・ 電気器具のスイッチが OFF（切）になっている事を必ず確認してから接続してください。
- ・ 発電機は接続された電気器具の負荷の変化に合わせて電圧が変化しますので、電圧変化に敏感な電気器具は使用しないでください。接続の可否が不明確な場合は、電気器具会社にご相談ください。
- ・ 過負荷電流の場合、プロテクターが作動しブレーカーが自動的に OFF になります。その場合、過負荷を減少させた状態で何分間か停止させてから再スタートしてください。
- ・ ガソリンを入れ続けての連続運転はできません。給油する時は必ずエンジンを停止させてください。同時にエンジンオイル量の点検等、始業点検を行ってください。
- ・ LP ガス使用の場合でも既定の連続運転時間経過時は、エンジンを停止させエンジンオイル量の点検等、始業点検を行ってください。

【ガソリンの場合】

1. 全ての電気機器を取り外し、エンジンオイルの点検を行ってください。(P15 参照)
エンジンオイルが基準面より少ない場合は給油してください。
2. ガソリンの点検を行ってください。(P15 参照)
ガソリンの残量が少ない場合はエンジンが冷えていることを確認し、ゆっくり給油してください。
3. 換気用レバーを ON にします。

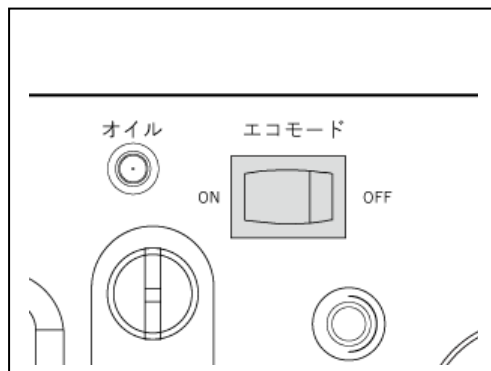


4. 切替スイッチをガソリン ON にします。



5. エコモードを ON にすると回転数が減り、燃料の使用が少なくなります。

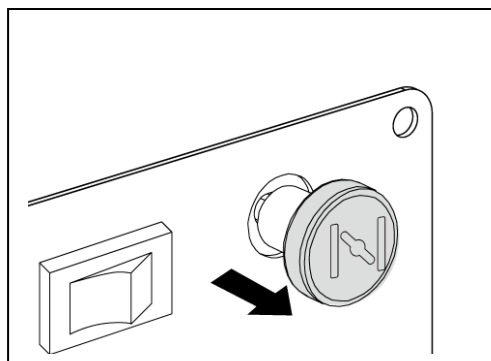
※突入電流が大きい場合は、スイッチを OFF にしてください。



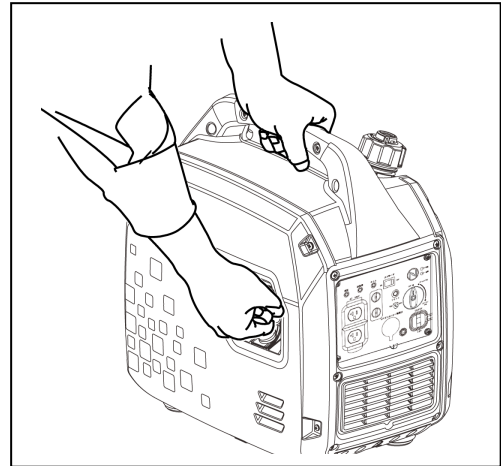
6. エンジンが冷えている状態で、チョークレバーを引いてください。(始動ポジション)

※始動の際のチョークの位置は、温度や他の要因で変わる可能性があります。エンジンが温まっている状態での始動は、チョークレバーを引く必要はありません。

(運転ポジション)



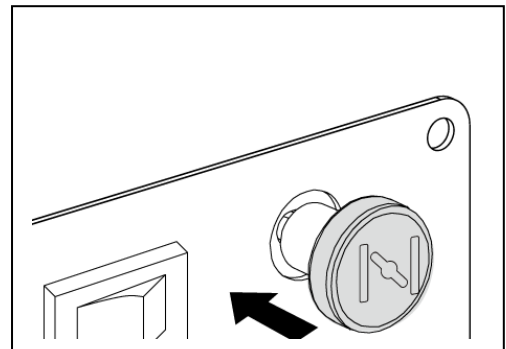
7. エンジン始動の際はリコイルスターターを握り、重くなる感触点まで軽く引き、そこから勢いよく引くとエンジンが始動します。その際にキャリーハンドルをしっかりと握り、発電機を固定するようにしてください。



⚠ 注意

- ・使用前に、リコイルコードの状況を点検してください。コードに絡まりやほつれ等があればコードを交換して下さい。
- ・リコイルスターターの反動により、手や腕が引っ張られる可能性がある為、引いた後、急に手を離さないようにしてください。
- ・予期せぬ反動により、もつれ、外傷性の切断や裂傷、骨折、打撲、捻挫のおそれがあります。

8. エンジン始動後、チョークレバーを運転ポジションに調整してください。エンジンの動作が不安定な場合は、チョークレバーを運転ポジションと始動ポジションの中間位置に調整してください。その後、エンジンの動作が安定しましたら、運転ポジションに調整してください。



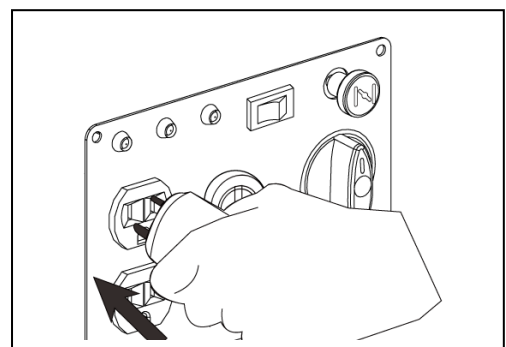
⚠ 注意

- ・エンジンが温かい状態では、エンジンを再始動する際チョークレバーを運転ポジションに合わせてください。

9. オートチョークが作動して、エンジンが始動し、しばらく暖機運転します。

10. エンジンが安定したら、電気器具（電源はOFF）のプラグを接続します。

11. 電気器具の電源をONにして使用します。



【LP ガスの場合】

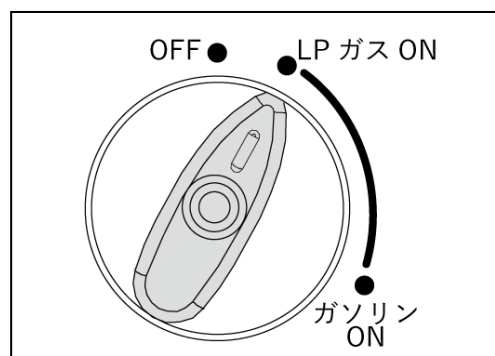
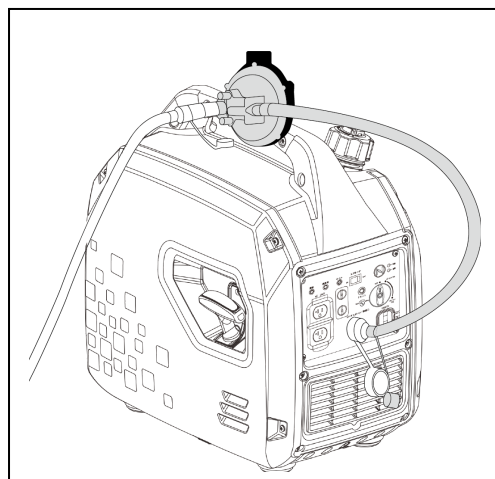
1. 全ての電気機器を取り外し、エンジンオイルの点検を行ってください。(P15 参照)
エンジンオイルが基準面より少ない場合は給油してください。

2. LP ガス接続ホースの点検を行ってください。(P16 参照)

3. LP ガスガバナーを本体のハンドルに取りつけ、
LP ガスガバナーの先端のカバーを外し、
操作パネルの LP ガスガバナー接続口にカチッと音が
するまで押し込んで接続してください。

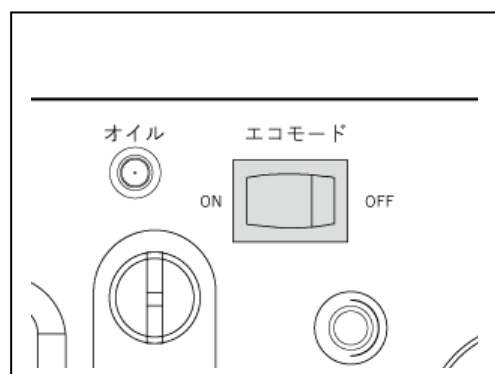
4. LP ガス容器と LP ガスガバナーに付属の LP ガス接続
ホースを接続し、ガス容器のバルブを OPEN(開)にします。
(P12 参照)

5. 切替スイッチを LP ガス ON の位置に合わせてください。



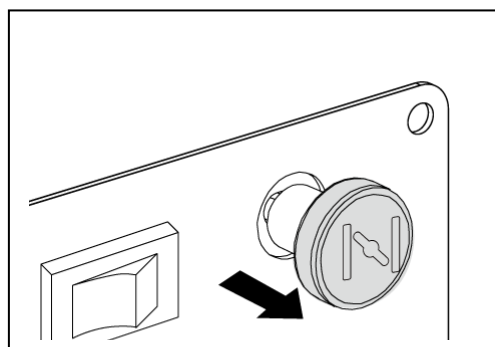
6. エコモードを ON にすると回転数が減り、燃料の使用が
少なくなります。

※突入電流が大きい場合は、スイッチを OFF にしてくだ
さい。



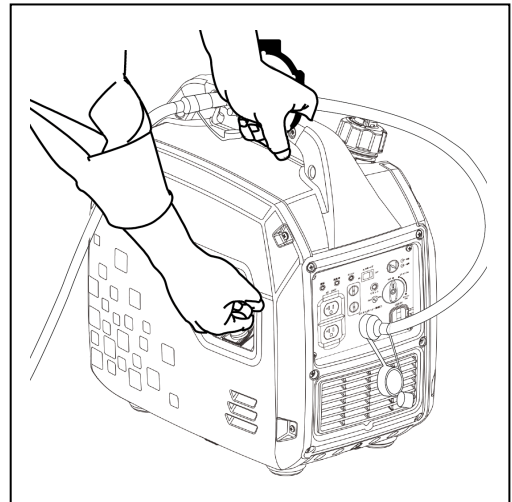
7. エンジンが冷えている状態で、チョークレバーを引いて
ください。(始動ポジション)

※始動の際のチョークの位置は、温度や他の要因で変わ
る可能性があります。エンジンが温まっている状態での
始動は、チョークレバーを引く必要はありません。(運転
ポジション)



8. LP ガスを送り込むためにリコイルスターターを5~6回程度軽く引きます。その後、チョークレバーを戻します。
※かかりにくい場合は、チョークレバーを半分に戻すなど調整して下さい。

9. エンジン始動の際はリコイルスターターを握り、重くなる感触点まで軽く引き、そこから勢いよく引くとエンジンが始動します。その際にキャリーハンドルをしっかりと握り、発電機を固定するようにしてください。



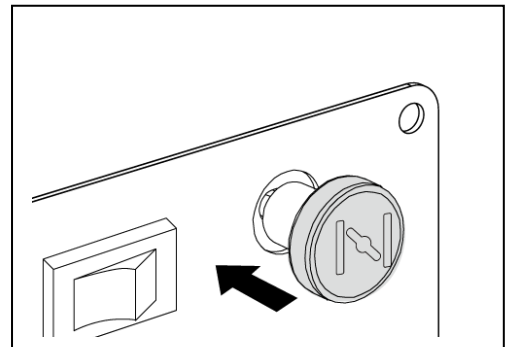
⚠ 注意

- ・使用前に、リコイルコードの状況を点検してください。コードに絡まりやほつれ等があればコードを交換して下さい。
- ・リコイルスターターの反動により、手や腕が引っ張られる可能性がある為、引いた後、急に手を離さないようにしてください。
- ・予期せぬ反動により、もつれ、外傷性の切断や裂傷、骨折、打撲、捻挫のおそれがあります。

10. エンジン始動後、チョークレバーを運転ポジションに調整してください。エンジンの動作が不安定な場合は、チョークレバーを運転ポジションと始動ポジションの中間位置に調整してください。その後、エンジンの動作が安定しましたら、運転ポジションに調整してください。

⚠ 注意

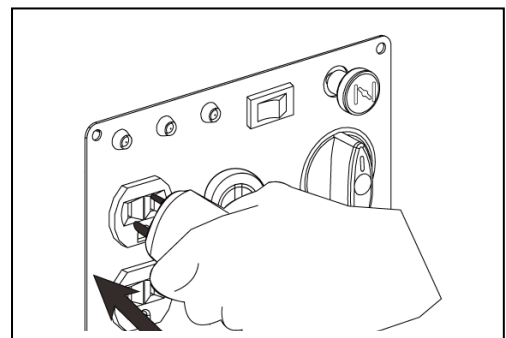
- ・エンジンが温かい状態では、エンジンを再始動する際チョークレバーを運転ポジションに合わせてください。



11. オートチョークが作動して、エンジンが始動し、しばらく暖機運転します。

12. エンジンが安定したら、電気器具（電源はOFF）のプラグを接続します。

13. 電気器具の電源をONにして使用します。



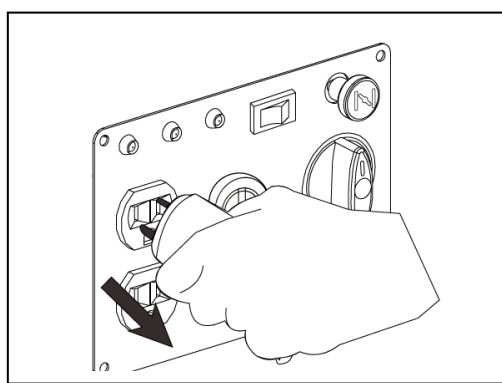
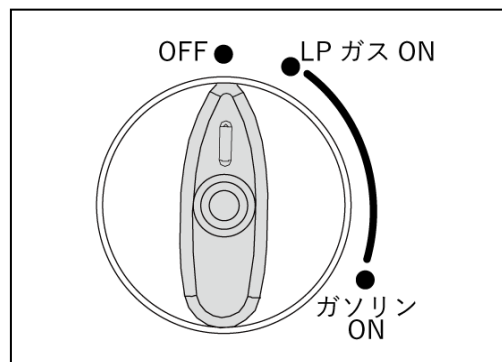
・エンジンの停止

【ガソリンの場合】

1. 電気機器のスイッチを OFF（切）にします。
2. 発電機から全ての電気機器のプラグを外します。
3. エンジンと発電機の内部温度を安定させるために、無負荷の状態ですばらくアイドリング運転させてください。
4. 切替スイッチを OFF の位置に回し停止してください。
5. 換気用レバーを OFF にしてください。

⚠ 注意

- ・電気機器を接続して作動している状態で、エンジンを停止しないでください。
- ・発電機を長期間使用しない場合は、エンジン動作中に切替スイッチを LP ガス ON（ガソリン OFF）の位置に合わせてください。キャブレターに残っているガソリンがなくなり、エンジンが停止してから、スイッチを OFF の位置に合わせてください。

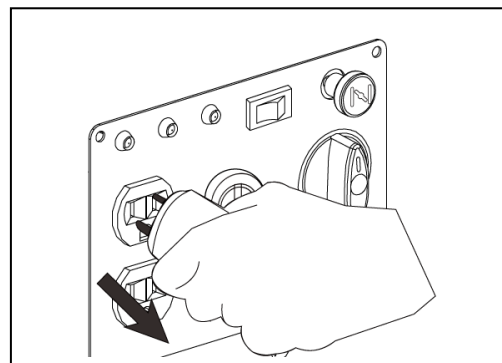
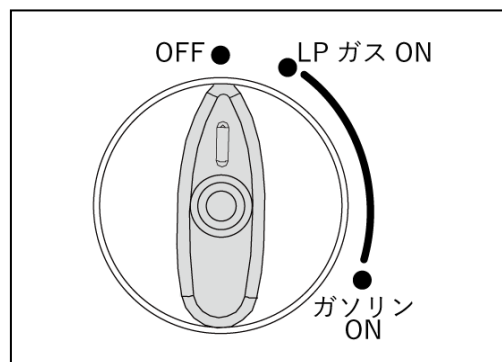


【LP ガスの場合】

1. 電気機器のスイッチを OFF（切）にします。
2. 発電機から全ての電気機器のプラグを外します。
3. エンジンと発電機の内部温度を安定させるために、無負荷の状態ですばらく運転させてください。
4. LP ガス容器のバルブを CLOSE（閉）にします。ガス欠でエンジンが停止するまで運転します。（※LP ガスガバナー内のガスを無くします。）
5. 発電機が停止してから、切替スイッチを OFF の位置に回してください。

⚠ 注意

- ・電気機器を接続して作動している状態で、エンジンを停止しないでください。



点検・定期運転・定期交換

・点検 定期運転 定期交換

⚠ 警告

- ・すべての電気機器の接続を外してからエンジンを停止させ、十分に冷えた状態から作業を開始してください。
- ・エンジン運転中および停止直後は、エンジン本体、マフラー周辺のプロテクターなどが熱くなっています。手足で直接触れないでください。火傷にご注意ください。
- ・排気ガスは、一酸化炭素など有害な成分を含んでいます。
エンジンを始動しての点検は換気の悪い場所や、風通しの悪い場所で行わないでください。
- ・重大な事故・故障の原因になりますので始業点検・定期点検を必ず実施してください。
- ・異常が認められた場合は、必ず整備を行ってください。
- ・本書での指示なき作業などを行う時にも、必ずエンジンを止めてください。

お客様の安全と、発電機の故障と事故を未然に防ぐために実施してください。

・始業点検 (P15 参照)

お客様が発電機をご使用するたびに点検を行ってください。
また、既定の連続運転時間経過時にも点検を行ってください。
点検個所に異常がある場合は、点検・整備をお受けください。

格納中であっても発電機を緊急で使用することが予測される場合は、ここに示す定期運転、定期交換を行って緊急時に備えてください。

・定期運転

1 ヶ月に 1 回程度、定期的に発電機を運転（約 10 分）し、電気器具を接続しての運転状態を点検してください。

・定期交換

定期的に交換が必要な部品は定期点検表に従って交換を行ってください。

要 点

- ・交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

定期点検表

- ・作業の際は、すべての電気機器の接続を外してから発電機を停止し、発電機が熱をおびていない状態であることを確認してから作業を行ってください。
- ・定期点検項目及び周期の目安を下記に示します。定期点検表に従って、点検を行ってください。
- ・過酷な条件で使用した際は、より頻繁に発電機の点検を行ってください。

		始業点検	3ヶ月毎又は 50時間運転毎 ※1	6ヶ月毎又は 100時間運転毎 ※1	毎年又は 300時間運転毎 ※1
エンジンオイル	点検	○			
	交換			○※2	
燃料	量、漏れ	○			
LPガス接続ホース	亀裂、損傷の確認	○			
エアフィルター	点検	○	○※3		
スパークプラグ	点検と調整			○	
	交換				○
スパークアレスター	清掃			○	
アイドル速度	点検と調整				○※4
バルブクリアランス	点検と調整				○※4
本体各部	各部の緩み確認				○
前日の作業で異常が認められた箇所		○			
低透過性ガソリン チューブ	点検		2年毎※4		
オイルチューブ	点検		2年毎※4		

※1 早い方のタイミングで点検をお願いします。

※2 初回は1ヶ月目または10時間運転時に実施してください。

※3 過酷で、埃が多く、汚れた環境では、より頻繁に点検してください。

※4 知識があり、経験豊富な所有者もしくは認証されたディーラーが点検を行うようにしてください。

点検・調整

・発電機の清掃

⚠ 警告

・発電機を水洗いしないでください。冷却口に水が入り、発電機の巻線が損傷します。

1. 発電機の外側表面を湿った布で拭いてください。
2. 柔らかいブラシで汚れやオイルを落としてください。
3. エアークンプレッサー等で、発電機の汚れや破片を落としてください。
4. すべての吸気口や冷却口がきれいで、目詰まりがないことを点検してください。

・エアフィルターの清掃

⚠ 警告

・油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務付けられています。

・重大な危険を招く恐れがあるので、エアフィルターを取りつけずにエンジンを作動しないで下さい。

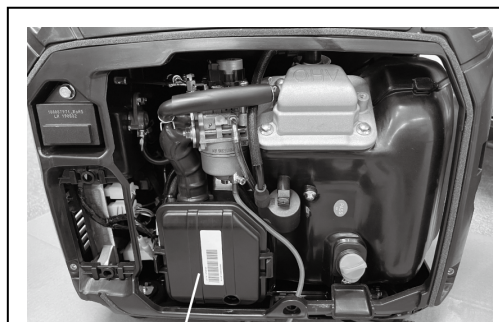
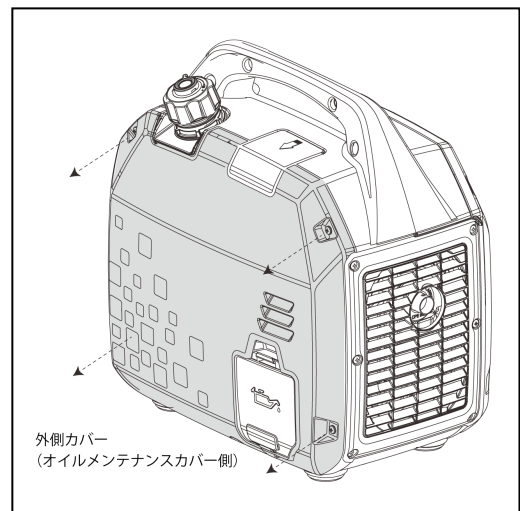
1. エンジンを停止し、冷えていることを確認して、4本のネジを緩め、外側のカバーを外してください。
2. エアフィルターカバーを取り外して、エレメントを取り出してください。
3. フィルター洗剤（灯油でも可）で洗ってください。
4. 握るように軽く絞って、きれいな布で乾かしてください。
5. フィルターオイルを染み込ませて、余分なオイルは乾いた布で吸い取ってください。
6. エレメントを元通りに戻し、エアフィルターカバーを取りつけてください。
7. 外側のカバーを取りつけてください。

⚠ 注意

・エレメント洗浄の際は、火気に十分注意してください。

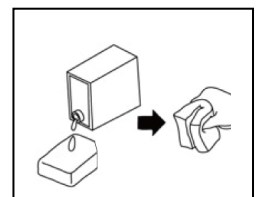
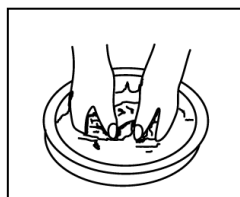
・エレメントは、絶対にねじったり、きつく絞ったりしないで下さい。破れてエンジンが不調になることがあります。

・ほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。



エアフィルターカバー

エレメント



・エンジンオイルの交換

⚠ 警告

- ・油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務付けられています。

1. 古いエンジンオイルを抜きやすくするためエンジンを始動し 2～3 分暖機運転します。
2. 切替スイッチを OFF にして停止します。
3. 排出するエンジンオイル（約 0.4L）を受け取る容器を用意します。
4. オイルメンテナンスカバーを外します。
5. オイルプラグキャップを外します。
6. 発電機を傾けて、古いエンジンオイルを抜きます。
7. 新しいエンジンオイルを付属のオイルロートを使用し基準面の上限まで給油します。

オイル量：約 0.4L

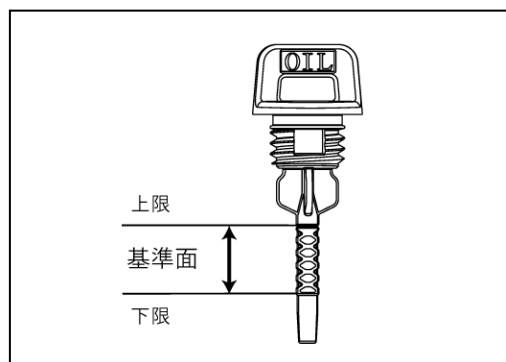
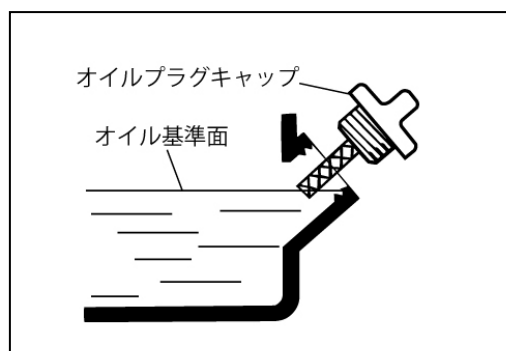
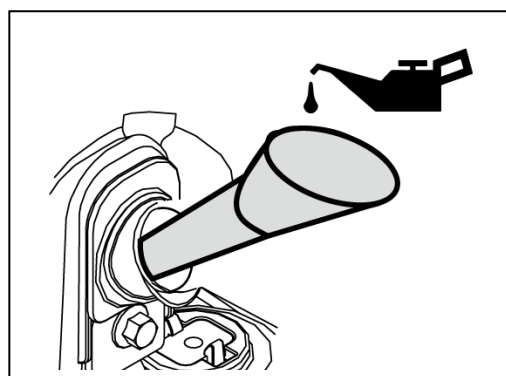
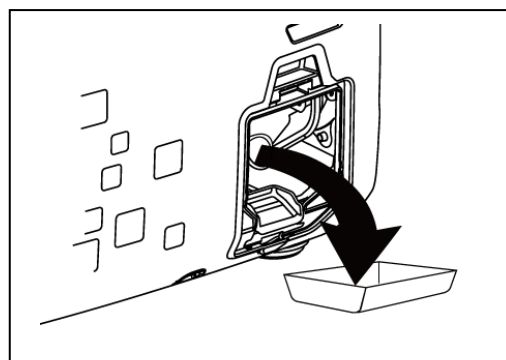
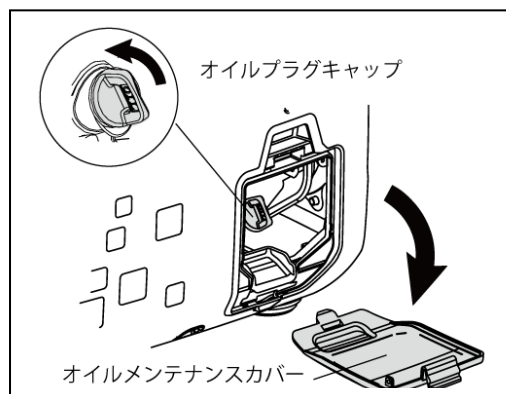
推奨オイル：API 分類 SE 級以上 SAE10W-30

または SAE10W-40

8. オイルプラグキャップを締め付けます。
9. オイルメンテナンスカバーを取りつけます。

⚠ 注意

- ・エンジン停止直後は、エンジンオイルが熱くなっています。すぐに排出せず、十分に冷えた状態から作業を開始してください。
- ・給油は、発電機本体を水平状態で行ってください。
- ・エンジンオイルの入れ過ぎにご注意ください
オイルを入れ過ぎるとマフラーから白煙が出ます。
- ・こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。
- ・初回は 1 ヶ月目または 10 時間時、その後は 6 ヶ月毎又は 100 時間運転毎に交換します。



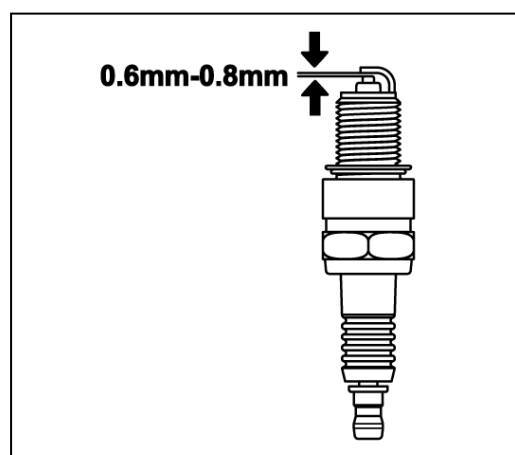
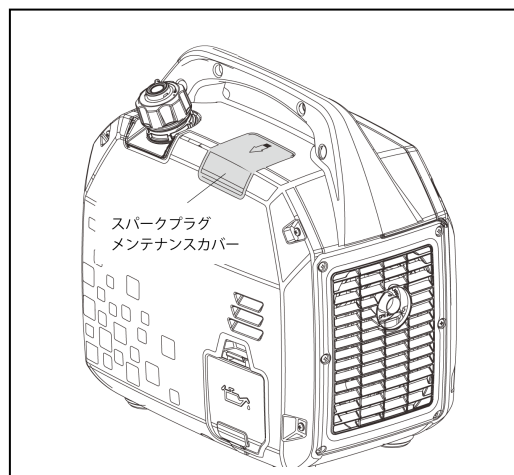
・スパークプラグの点検と清掃

⚠ 警告

- ・スパークプラグの着脱の際は、碍子を損傷させないように注意してください。
- ・碍子が損傷すると、電気がもれて火災等を誘発する恐れがあります。
- ・スパークプラグは、徐々に劣化しますので、定期的を外して点検を行う必要があります。
- ・推奨されるスパークプラグのみを使用してください。

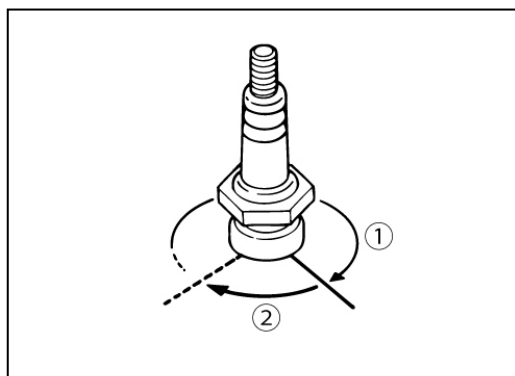
スパークプラグ：NGK BPR5HS

1. エンジンを停止し、冷えていることを確認して、スパークプラグメンテナンスカバーを外します。
2. スパークプラグキャップをスパークプラグから取り外してください。
3. 付属のプラグレンチを使用して、スパークプラグをエンジンから取り外してください。
4. スパークプラグの焼け具合を見ます。
通常はキツネ色に焼けますが、黒く煤けていたり、白く焼けていたりする時は、エアクリーナを点検します。
5. 電極付近の汚れ（カーボン）を落とします。
6. 電極隙間を点検します。
スパークプラグ：TORCH E6RTC
スパークプラグギャップ：0.6～0.8mm
7. スパークプラグを締め付けます。
8. スパークプラグキャップを取りつけます。
9. スパークプラグメンテナンスカバーを取りつけます。



要 点

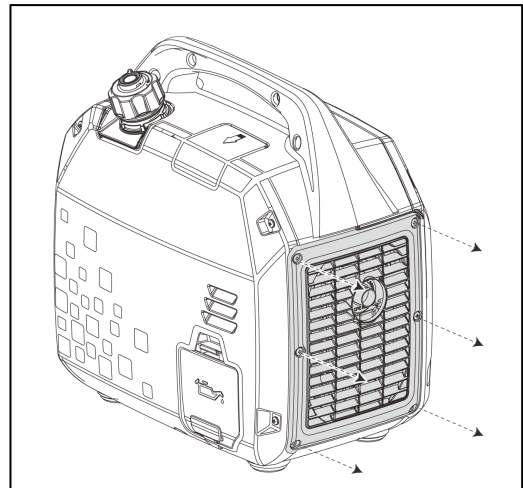
- ・新しいスパークプラグを取り付ける際に、指でいっぱい締めこんだ後①、プラグレンチを使って1/4～1/2回転②更に締めこんでください。



(参考)スパークプラグ互換品 NGK BPR5HS

・スパークアレスターの点検と清掃

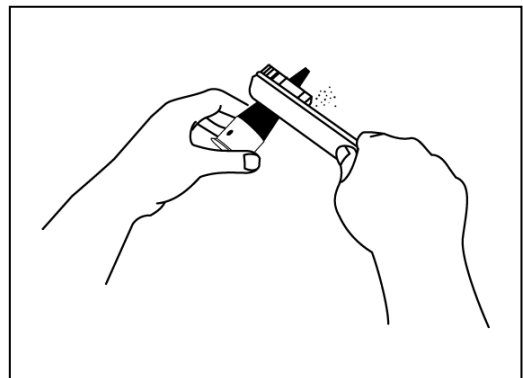
1. エンジンを停止し、冷えていることを確認して、6本のネジを緩め、マフラーカバーを取り外してください。



2. 1本のネジを緩め、スパークアレスターを取り外してください。



3. スパークアレスターから、ワイヤーブラシでカーボン堆積物を慎重に取り除いてください。



4. 損傷している場合、スパークアレスターを交換してください。
5. スパークアレスターを再度取りつけ、マフラーカバーを再度取り付けてください。

故障診断

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは取り扱いの不慣れや点検の不十分に起因しています。故障が生じた時は販売店にご相談ください。

下記に、最も考えられる故障を選びその想定される原因を列記しました。

不具合が解消しないときは、できるだけそのままの状態、販売店に連絡しご相談ください。

・発電機が始動しない

不具合	解決手段
切替スイッチが OFF の位置にある。	ガソリンでの操作の際は、切替スイッチをガソリン ON の位置に回し、LP ガスでの操作の際は、LP ガス ON の位置に回してください。
ガソリン又は LP ガス不足。	本書の手順に従って、ガソリタンクへの給油。 あるいは LP ガスボンベを交換してください。
エンジンオイル不足。	油面を点検してください。このエンジンには、オイルセンサーが装備されています。油面が規定値内にならなければ、エンジンは始動しません。
ガソリンでの作動の際、LP ガスガバナーのホースが接続したまま。	LP ガスガバナーのホースを外してください。
チョーク制御がうまく行かない場合。	【ガソリンの場合】 エンジンが冷えている場合、チョークを始動ポジションに調整して始動してください。エンジンが温かい場合、チョークを運転ポジションに調整して始動してください。上手くいかない場合、チョークレバーを中間位置に調整してください。 ----- 【LP ガスの場合】チョークを始動ポジションに調整して始動を 3～5 回試みてください。上手くいかない場合、チョークを運転ポジションに調整して始動を試みてください。
点火しない。	P27 の手順に従い、スパークプラグを取り外してください。 スパークプラグにプラグキャップを取りつけてください。 切替スイッチを LP ガス ON かガソリン ON の位置に回してください。 スパークプラグの電極をエンジンの金属部分に接地して、リコイルスターターを引き、火花が確認できなければ、プラグを交換してください。
スパークプラグにガソリンが付着。	P27 の手順に従い、スパークプラグを取り外し、ガソリンを拭き取ってください。
一定時間稼働後、発電機が停止。	ガソリタンクキャップの換気用レバーを ON の位置に回してください。 ガソリンとオイルの量を点検してください。必要に応じ、給油してください。

・発電機が始動しない

不具合	解決手段
過負荷。	電気機器を取り外して、リセットボタンを押してください。
延長コードや配線の通電確認。	延長コードや配線の容量、断線等により通電の妨げになっていないか確認してください。

運搬

・運搬

輸送や一次的な保管の際は、換気用レバーと切替スイッチを OFF にして、ガソリンがこぼれないよう横向きにせず、ハンドルを上状態で置いてください。

⚠ 警告

- ・ 振動、衝撃等で燃料タンクのガソリンがこぼれる恐れがありますので、車内に発電機を乗せたまま悪路を輸送する場合は、発電機から事前にガソリンを抜いてください。
- ・ 燃料が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランク等に積載したまま、長時間直射日光のあたる場所に放置しないでください。
- ・ 火災の恐れがありますので、予備のガソリンは鉄製の携帯タンクに保管してください。
- ・ 火災の恐れがありますので、車両に積載したまま使用しないでください。

⚠ 注意

- ・ 発電機の上に物を置かないでください。
- ・ 燃料タンクキャップは確実に締め付けてください。

発電機を自動車・トラック等の車両で運搬する場合は、各事項を守ってください。

保管・格納

・保管

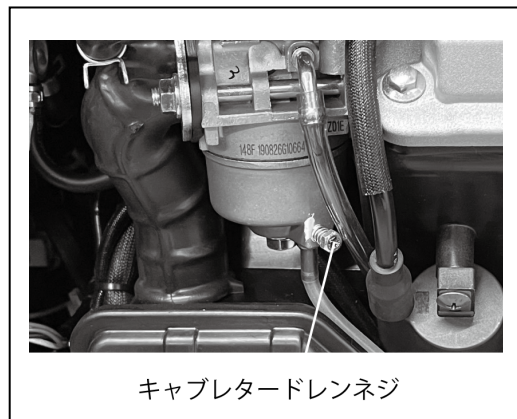
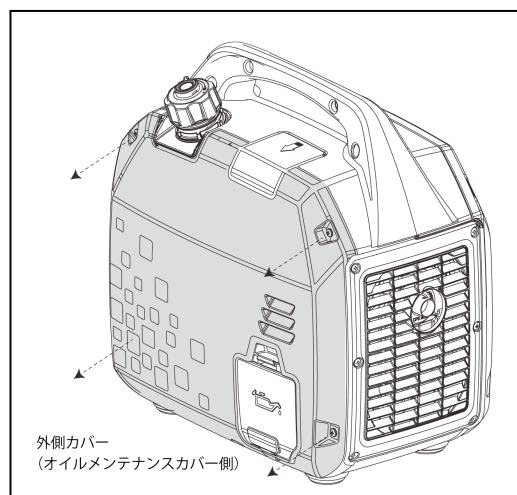
使用後、または定期運転後、下記の作業を行って保管し、次に使用する時に備えてください。

【ガソリンの場合】

⚠ 警告

- ・ガソリンは自然劣化します。故障を防ぐため、30日以上使用しない場合は、必ず下記の作業を行って下さい。
- ・ガソリンは可燃性と爆発性が非常に高いです。こぼれた燃料は、完全に拭き取ってください。
- ・発電機を保管あるいは移動させる前に、ガソリンタンクを空にしてください。

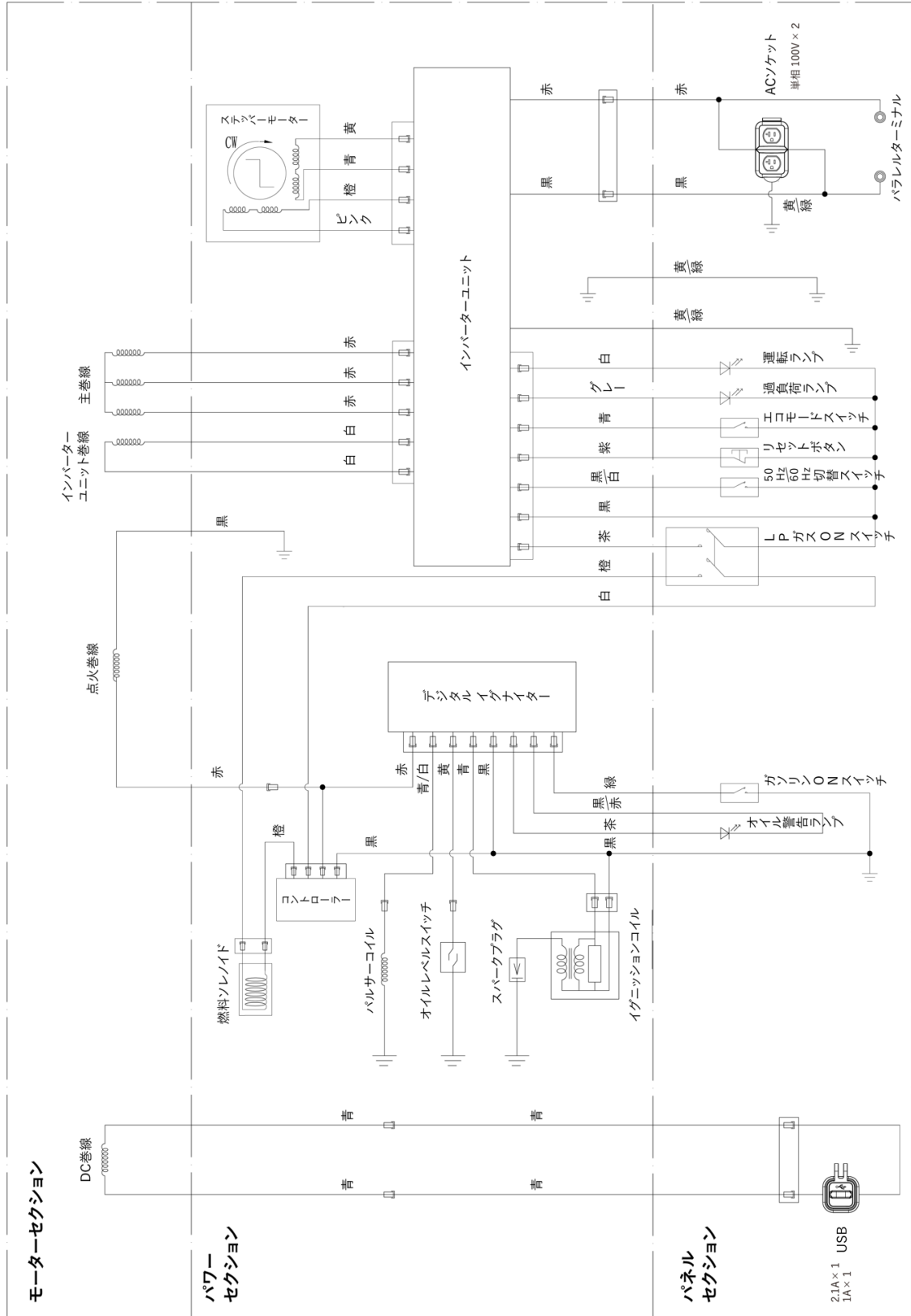
1. 保管する前に発電機を完全に冷ましてください。
2. 発電機を清掃してください。(P25 参照)
3. ガソリンタンク、燃料ホースのガソリンを全て排出してください。
4. 4本のネジを緩め、外側のカバーを外します。
5. ドライバーでキャブレタードレンネジを開き、キャブレター内に溜まったガソリンを排出します。
6. ガソリンが排出されたら、ドライバーでドレンネジを締め、外側のカバーを元通りに戻します。
7. スパークプラグを取り外し、シリンダーに約15mLのオイルを注入してください。リコイルスターターをゆっくり引き、シリンダーに馴染ませます。その後、スパークプラグを取りつけてください。(スパークプラグの外し方・つけ方：P27 参照)
8. 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管してください。
9. LPガスガバナーとパネル側の接続部に塵や埃が中に入らないようにしてください。



【LP ガスの場合】

1. 保管する前に発電機を完全に冷ましてください。
2. 発電機を清掃してください。(P25 参照)
3. スパークプラグを取り外し、シリンダーに約15mLのオイルを注入してください。リコイルスターターをゆっくり引き、シリンダーに馴染ませます。その後、スパークプラグを取りつけてください。(スパークプラグの外し方・つけ方：P27 参照)
4. 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管してください。
5. LPガスガバナーとパネル側の接続部に塵や埃が中に入らないようにしてください。

配線図 (GD1600SR)



トラブル時の緊急連絡先

アフターサービスセンター

0120-317-305

9:00～18:00（日曜除く）

株式会社 G&ECO プロダクツ